

機械&総合技術監理部門

所属：高木技術士事務所 高木宏一

ボランティアガイドの愉しみ

1. はじめに

- 1.1 人生の黄昏を迎えて健康的で楽しい趣味として、昨年末から「リトルワールド」のボランティアガイドを始めた。「リトルワールド」は愛知県犬山市と岐阜県可児市の県境を跨いだ緑豊かな愛岐丘陵に、昭和58年（1983年）名古屋鉄道㈱が開設した敷地123万平方メートルの野外民族博物館である。そして現在、来年の開館30周年を記念して、従来3大宗教の中で欠落していたイスラム教とその文化を紹介する「トルコ館及び周辺街路」の建設計画が進められている。
- 1.2 開館以来各種の紆余曲折はあったが、世界各地の「サーカス」や「ダンス・大道芸」等の公演をはじめ、「世界のB級グルメ」「民族衣装の試着」等のイベントによる海外文化との触れ合いが評価されてこのところ入園者が増大している。また、昨年、11月まで開催された「謎のアンデス展」はリトルワールド館長の「東大名誉教授 大貫良夫氏」がインカ文明研究の世界的な権威者で、ご自身が発掘された黄金遺物をはじめとする豊富な展示物が展示された。このため、世界文化遺産中で日本人の人気第一位「マチュピチュ」関連展示との相乗効果で、一日に1万7千人を超える入場者が出るほどの好評ぶりであった。
- 1.3 現在のリトルワールドは春を迎えて家族連れや若者たちの笑顔に溢れ、野外ステージではロシアのサーカスチームが公演中で、クラウン達のコミカルな演技や空中技・アクロバット等のスリリングな演技に興奮の歓声が沸き上がっている。そして、最近私たちが総勢40名程の「ボランティアガイド」の展示家屋等に関する幅広く楽しい解説が新たな魅力として評価されている。

野外民族博物館 リトルワールド （←Ctrlを押しながらクリック）

2. ボランティアガイド（以下、ガイド）の業務

- 2.1 リトルワールドでのガイドの対象エリアは、本館展示場以下、6エリアの野外展示場、即ち「石垣島・アイヌ・台湾」「ペルー・インドネシア」「ドイツ・フランス・イタリア」・・・等々の如く、合計7エリアで構成されている。そして、ガイドは当日担当する指定エリアをいずれも同等のレベルで、訪問客に楽しく有意義に説明することが求められている。
- 2.2 このため、ボランティアガイドの応募者は選考の後、リトルワールドに所属する5名の学芸員中の指導員から就業規則を含めて4日間の館内施設及び展示物に関する教育・指導を受ける。その後、先輩のガイドに4日間同伴して接客・ガイド要領等の実地学習を行って1本立ちする。なお、ガイドの就業時間は10時から15時であり、研修習期間中の就業もこれに準ずる。また、謝礼金は一律足代程度でご褒美は沢山歩

いて健康になり、文化人類学的な知見を深める愉みと云えるであろう。

- 2.3 ちなみに、ガイドは学芸員事務所の一角を詰所として利用し、ガイド用教材として当館の解説小冊子類を支給される。また、学芸員事務所に供えられたガイド用教材の一部を借用して自宅で学習することができる。なお、詰所には文化人類学に関する膨大な書籍を有する図書館が隣接しており、学習室等を利用すれば自由に多面的な分野の学習を行うことができる。
- 2.4 また、リトルワールドが主催するワールドカレッジにおいて、学芸員や近隣大学の教授陣等による年間8回の文化人類学に関する講座をカレッジ受講者と一緒に聴講できるのも有効な学習機会である。そして、先輩ガイドはこのような基礎知識に加えてそれぞれ工夫した学習を実施されており、その話題の広さには敬服すべきものがある。比較的長期間の海外旅行を繰返して実施し、豊富な写真集を活用して説明される先輩ガイドの経験談や多様な経歴のガイド諸氏との交接地も興味深い。

3.リトルワールドの楽しみ方

- 3.1 当館の本館展示場は「人類の進化」「衣食住に係る技術の変遷」「人の誕生、生育、結婚、死」・・・等の5部門に分類された様々な道具類と、100種類に及ぶ人間の活動映像が展示されており数度の訪問では見切れない程豊富な内容である。そして本館展示場は世界各地の道具や習慣にみられる人類の共通性を示しており、野外展示の建築物や生活用品は地域による人類の特異性を展示している。以下、当館の訪問客に多い若い女性が興味を示す「結婚関係のテーマ」を例に取って展示内容とガイド内容を説明して見よう。
- 3.2 展示されている「インドネシアのバリ島貴族の家」の現地では、現在でも「駆け落ち婚」が多数を占めるそうである。しかし、日本の「駆け落ち」と違ってカップルの結婚を親・親戚等は事前に了解済みで、二人はあらかじめ打合せた友人宅や親戚宅に駆け落ちをする。そして、両親・親戚は大騒ぎで二人を探すふりをして、やっと見つけたと云うことで盛大な結婚式を執り行う由である。つまり、「駆け落ちの儀式」で「二人はこのように愛し合っているので結婚を認めて欲しい。」と世間に認知させる方式である。
- 3.3 他方、展示の「西アフリカ カセーナの家」は1夫多妻を前提とした建築構成で多くの親族が集団で生活しており、夫は隣接して建てられた家に住む妻1、妻2、妻3等と協力して暮らしている。この場合、病気や事故等で夫を亡くした未亡人が一人で暮らして行くのが困難な環境なので、彼女とその子供の面倒を見るために夫の親族が残された婦人を妻にして一夫多妻になるとのことがある。
- 3.4 そしてインドケララ州のナヤール（カースト制の地主）のドラヴィダ人の家族制度では財産は母系で相続し、日本の平安中期と同じく「妻問婚(つまどいこん)」で夫婦は結婚しても同居せずそれぞれ母方の実家で暮らし、夫は昼間自分の実家で働き夜になると妻のところ時に通う。そして、展示されている「ナヤ

ールの家」には人が乗ると踏み板が動いて大きな音の出る奇妙な階段があり、2階に住む姉妹等の女性達に人が来たことを知らせる。なお、この階段の上部登り口には下方に鍵の掛ける扉があり、家の主人がその鍵を保有してその夜に2階に上がる男性を管理する仕組みになっている。

3.5 一方、しばらくすると結婚した妻には、夫以外に2, 3人の指定された男性が夜間に訪問することを許されて主人の管理下で音のする階段を上下することになる。そして、この制度は家系をより確実に継続させるために優れた方法として長期間維持されて来た。なお、前記階段とその制度を説明した時の訪問客の反応は多様であるが、「お金持ちと結婚して、2, 3人のイケメンの彼氏とお付き合いするのも悪くないね。」との若い女性グループの声もあった。

3.6 そして隣接して設置されている「ネパール仏教寺院」の本堂には仏画や曼荼羅がびっしりと描かれているが、ラマ教では女性の般若（智慧）と男性の慈悲（智慧を實踐する力）の合一によって真の悟りに到達するとされて、本堂右壁はチベット仏教を代表する尊者達の男女合体尊が並んで礼拝されている。以上、野外展示場の婚姻に関する話題の一部を紹介したが、この分野に限定しても世界の風俗・習慣は各地の風土と結びついてそれぞれ異なっており興味深い。国際化が急速に進展する現在、我々は日本の習慣や価値観にとどまらず、諸外国には多様な習慣や価値観があることを理解して物事の判断を行う必要がある。

4.まとめ

4.1 リトルワールドの本館には6,000点（収納物4.5万点超）に及ぶ民族資料と100種類の人間活動の映像がテーマ別に展示され、野外に22ヶ国の33の家屋展示と合せて日本有数の野外民族博物館を構成している。また、現在ロシアの「クラウン・ドリーム・サーカス（～6月24日、火曜休演）」が公演中で、年間を通して各国の大道芸、舞踏、祝祭イベント等、各種のアトラクションが開催されており、世界のB級グルメ大会と合わせて気分転換に好適である。

4.2 現状のボランティアガイドの構成は男性23名、女性16名で、高齢者も多いが結構若い仲間も含まれている。私は週末の4回/月のガイド役を目途にしているが、健康に良いからと10回/月以上のガイドを務め、残りの日に明治村のガイドを実施している方も複数見える。また、この仕事が楽しみとして刈谷や岡崎から電車で遠距離を通って見えるガイドさんもおられる。

4.3 これからは気持ちの良い季節を迎えるが、1周2.5kmの林間コースを歩いて健康を増進し、文化人類学に関する興味を充足させたいと思われる同好の士は「ボランティアガイド」の扉を叩かれては如何でしょう！

リトルワールド「ボランティアガイド募集係」

犬山市今井成沢 90-48 ☎0568-62-5611 以上